

町との関わり
思案中の

「はとやまハウス」に入居中の 学生を紹介します



こにし たかひと
小西 隆仁さん
東京藝術大学大学院 修士2年
建築専攻

まちづくりに興味
があります。

大学のサッカー部でコー
チをしています。子ども
たちとサッカーをしたり、韓国語講座ができた
らと思っています。

家具などの設計やデ
ザインが得意なので、
一緒になにか作ること
ができたらと思っ
ています。

韓国から来た留学生
です。U-15サッカー
元韓国代表です。

ジャン・ダソルさん
大東文化大学 学部3年
スポーツ科学科



ながた いぶき
永田 伊吹さん
東洋大学大学院 修士2年
建築専攻

大学院で建築を専攻していま
す。DIYや家のことでお困りの
際は、できる範囲でお手伝いさ
せていただきたいと思います。

以上にコミュニケーションがとれ
る」と話していました。
また入居者の永田さんは「シェア
ハウスの庭の畑で作業をしてい
ると、近所の人からアドバイスをい
ただける。都会にはない、近い距離感を
感じる」と話していました。
この1カ月のシェアハウスでの生
活について皆さんに尋ねてみました。
現在、大学の授業はそれぞれオン

家賃が無料!?

入居者募集中

「はとやまハウス」に入居してみま
せんか。現在、鳩山町コミュニティ・
マルシェで月32時間働けば、賃料が
無料になるキャンペーンを実施中です。

■問合せ 鳩山町コミュニティ・
マルシェ ☎272-7528 (問
合せ時点で満員となっている
可能性もあります。) ■メール
hatoyamacommunitymarche@
gmail.com

次ページでは、学生と「まち」のつ
ながり方について触れていきます。
ラインで行われていて、学生たちは
シェアハウス内で授業を受けていま
す。パソコンで行われている、それぞ
れの授業の様子が垣間見える状況
は、「今までにない環境で興味深い」
と学生たちは、話していました。
新型コロナウイルス感染拡大防止
により、外出する機会が減少しまし
ましたが、学生たちは前向きに過
ぎしていません。3人で食事をしたり、共通の
研究テーマで意見を交わしあつた
り、ジャンさんが行っている、普段触
れる機会のないアスリート用の本格
的な身体トレーニングを一緒に
たりと、3人で交流する時間が多
くなりました。「こういう状況だから
こそ生まれた絆があったのではない
か」とのことでした。

若者と「まち」を つなぐシェアハウス

特集

～空き家を活用した地域活性化への挑戦～



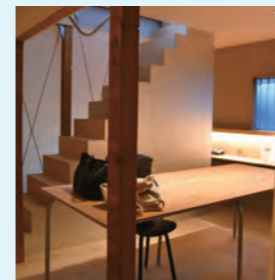
学生用シェアハウス「はとやまハ
ウス」に、今年の4月から3名の大学
生が入居しました。入居したのは、近
隣の東松山市にある大学や都内にあ
る大学に通う3名の学生です。
そのうちの一人、小西さんは、イタ
リアへ留学中でしたが、新型コロナ
ウイルス感染拡大の影響であえなく
中断。別の留学先を考えていた矢先、
入居者を募集していた「はとやまハ
ウス」の存在を知りました。
元々、地方郊外のニュータウンに
興味があった小西さん。ニュータ
ウンの持つ特有性、課題などを知り、自
身が研究する建築の分野に活かした
いと考へ、深く知るには「住むしか
ない」と決意。すぐに入居の応募をし
ました。
2名の共同パートナーと暮らし始
めて1カ月。小西さんに鳩山町の印
象を訪ねると「散歩や買い物、ジョギ
ングなどで外に出ると、あいさつを
する機会が多い。近隣の方と思っ



地方「留学」で学びたいもの

「移住推進センター」を運営する鳩山町コミュニティ・マルシェでは、事業の一環で、空き家を「学生用シェアハウス」に改修し、運営を行うモデル事業に取り組んでいます。高齢化が著しい鳩山ニュータウンで、若者とまちをつなぎ、地域の活性化につながる取り組みとして期待されています。
今月は、これまでの短期入居の試行期間を経て、4月から本格稼働したこの取り組みについてお伝えします。

学生用シェアハウス「はとやまハウス」とは



高齢化が進み、空き家の多い鳩山ニュータウン内、その活用方法を考えるモデルプロジェクトとして、平成31年4月に松ヶ丘地内に整備した、学生向けのシェアハウスです。最大4名が入居でき、改修設計と管理運営は、鳩山町コミュニティ・マルシェを運営する、株式会社アール・エフ・イーが行っています。

「空き家バンクシステム」からシェアハウスが誕生！



鳩山町コミュニティ・マルシェ内の移住推進センターでは、空き家を処分・活用したい人と空き家を探している人とのマッチングを図る「空き家バンクシステム」を運営しています。令和2年4月末現在、これまでに延べ116件の相談をお受けしました。相談を通じて、今回ご紹介した学生用シェアハウスの整備につながった事例が1件、成約に至ったものは4件、ホームページ「空き家バンクナビ」への公開に至った空き家は3件となっています。（詳細は下表参照）

移住推進センターの実績

項目	件数
相談	116件
うち物件を探している	79件
うち物件を処分したい	32件
空き家バンクへの物件登録	15件
うち空き家バンクナビへの新規登録	3件
空き家バンクへの利用登録	21件
成約	4件

（令和2年4月末現在）

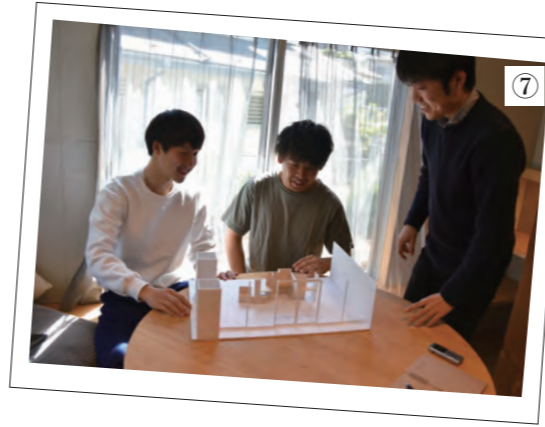
今後も、マルシェでは、各種情報の収集及び提供を行い、本町への移住に関する相談、支援を行います。

なお、空き家をお持ちの方は、空き家バンクへの登録をご検討ください

■問合せ 鳩山町コミュニティ・マルシェ
☎ 272-7528（祝日を除く午前10時から午後5時）



⑥ 棚を修繕



⑦



① 夏野菜を植えました



チラシ配布中

自己紹介身レセン



⑧



④



⑤



農作業、チラシ配布、マルシェの活動：住民との交流で地域とつながる

自己紹介チラシの配布

シェアハウスの学生に、近所の方から、「シェアハウスの周りの人たちは、住んでいる学生の顔は知っていると思うが、どのような人が住んでいるか分からない人が多いのではないか。自己紹介などを紙に書いて、郵便受けに入れておいたらどうか」という話がありました。地域の皆さんと交流できるきっかけの機会でもあるので、チラシを作成しようということになり、学生たちが自らデザイン、印刷をし、近所に配布しました。学生たちは、「まずは、自分たちがどんなことができるか知ってもらいたい。近所との交流活動の第一歩になればいい」と話しており、「入居当初に、3人のみで、自己紹介のプレゼンテーションを行った。新型コロナウイルスの感染拡大が終息したら、近所の人も招いて、自己紹介も兼ねた交流会も開催したい」とも話していました。

鳩山町コミュニティ・マルシェでの活動

4月の入居時から、鳩山町コミュニティ・マルシェが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館となっていました。この間を利用して学生たちは、棚やブラックボードの修繕を行いました。

また、正面入り口からふくしプラザのスペースの間に、現在はホワイトボードが置かれていますが、「冬は扉が開くたびに冷たい風が直接入ってくる」という声を受けて、新規の家具を考案しているということでした。

「家具はマルシェの入居者の入居時の家具の構築



①②自己紹介チラシを近所の郵便受けに配布する学生たち。庭先に居合わせた方には手渡しました。③学生たちが作成し、配布した自己紹介チラシ④⑤「はとやまハウス」の庭をきれいに耕して、トマトやナスなどの夏野菜を植えました。⑥鳩山町コミュニティ・マルシェ内の棚を修繕しました。⑦鳩山町コミュニティ・マルシェ内に設置する家具を新たに作成考案中。⑧入居者同士でスライドを使った自己紹介。お互いのことをよく知るきっかけとなりました。

口には置かれるため、風よけのパネルになるだけでなく、棚や椅子を兼ねたものを検討している。マルシェの顔になるような良い作品を作りたい」と話していました。

鳩山町コミュニティ・マルシェの施設再開時に「良い施設になったという印象を持ってもらえるように、頑張っていきたい」とのことです。

今後、彼らの活動を通して、鳩山町の地域活性化が期待されます。

■問合せ 役場政策財政課
☎ 296-11212